



炎のようにな

成人向



兄さん



ここに居たのか



つかしいな

確かここに



おう、おう
分かってるぜ

バッシュが着いたぞ
ローデリヒもそう同じ道を
何度も迷わない



光あり

天空に煙めきあり


兄弟達よ
新たな命には饒に剣を



世の初め
天地は分かれり

天から雨が降り注ぎ
万の命を冷やせど
大地を潤す恵みとならん

地からは火が噴き出で
万の命を焼くなれど
大地を温める熾火とならん



共に手を取り
理想の炎を抱げよ

その誇りが
天に達すれば

主の元に
我等の地が開けよう



母の如し

父の如し

千代続く
灯の如し



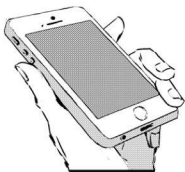
炎
の
よ
う
に

*本書は日丸屋秀和氏作"AxisPowersヘタリア"の二次創作物です。

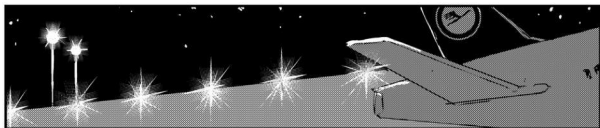
*原作者、実在する人物および国家とは一切関係ありません。

*戦争の描写を含みますが、戦争を賛美する意図は一切ありません。

*無断転載、複製、ネットオークションへの出品、その他一般の方の目に触れる行為を固くお断りします。



バッシュ何某 19:31
不足の書類は郵送しておいたの
である。数日留守だそうだが期日
までによろしく頼む。
遠路つつがなく。





これはこれは



鼻の頭まで
真っ赤ですね

日本の冬の匂いだけ





歓迎が足りねえ

何をしますかっ

満面の笑顔で
迎えろ

善処しま
ぶっ



中へ
どっせ



すげえ冷てえ

水を使って
ましたから



夕食の支度は
済んでますよ

おう
ダンケ

あれが食いてえ
ブリ鍋!

済んでます

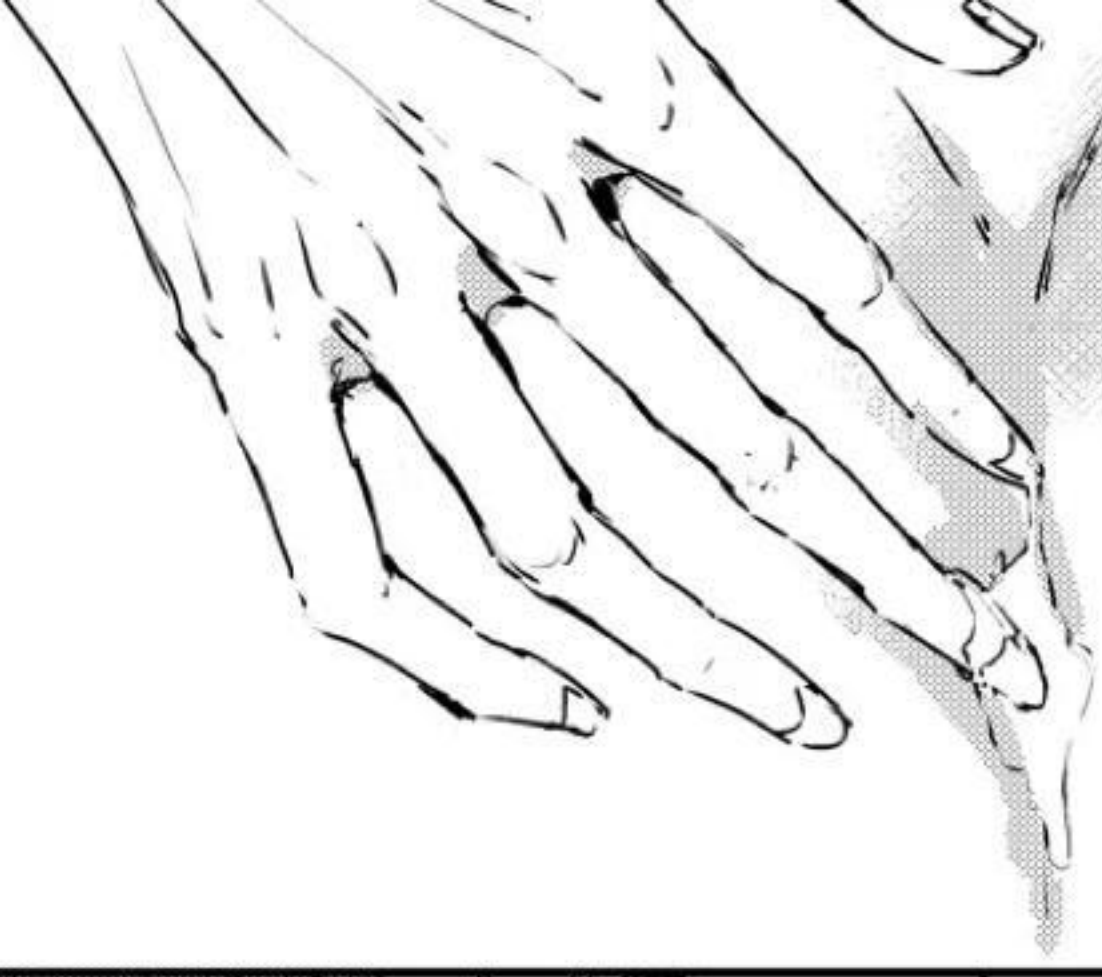
明日!

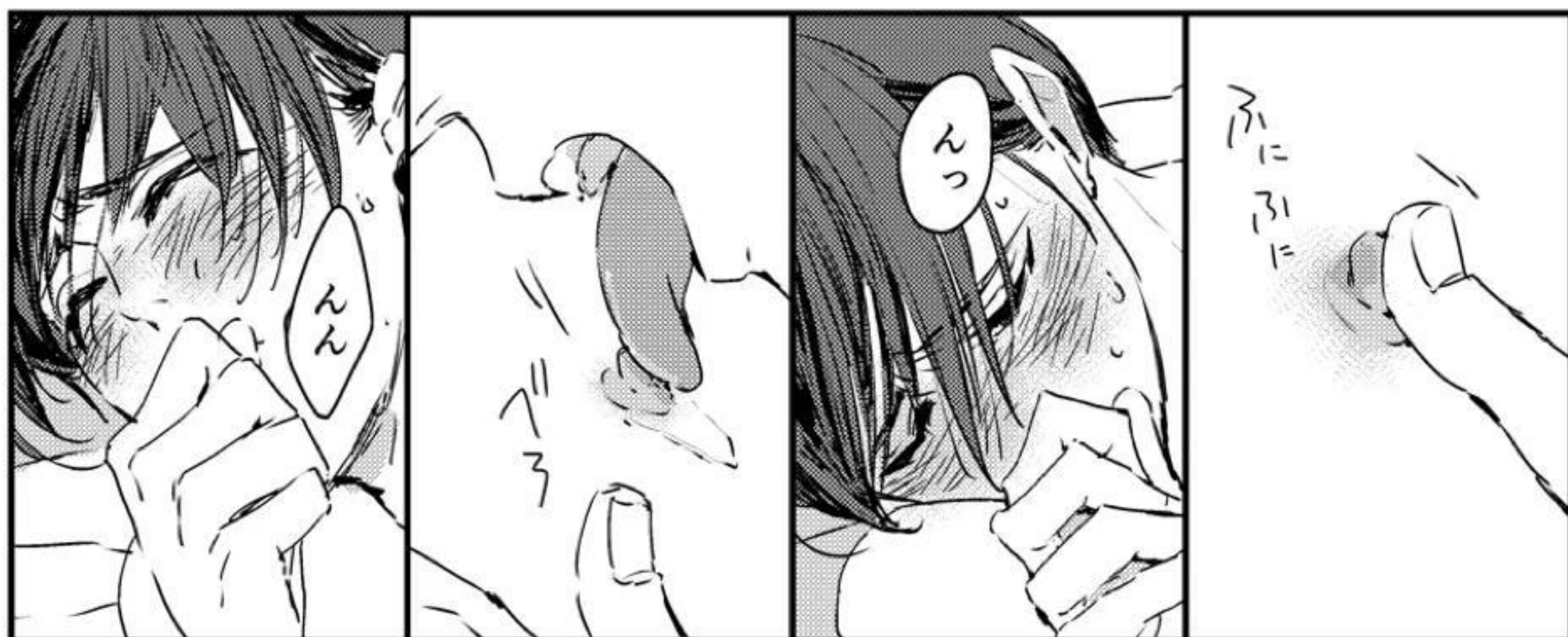
はいはい
お風呂を張って
おきましょうか

俺は後でいいぜ

お前が入りたい
なら先に

寝る前に
さっぱりしてえ









はた
はた
た



う

ひあ

ずる



随分柔らかくなった

これだけやれば

人間だったらとっくに
妊娠でもなんでも

いやその前に
女じゃない

風呂浴びるか？



面目ない…



そうとも
お前は女じゃない







俺も無理に
したいわけじゃねえし
なんだ

具合が良くないなら
しばらく…



おい
まだ飯



少し出ます



散歩です

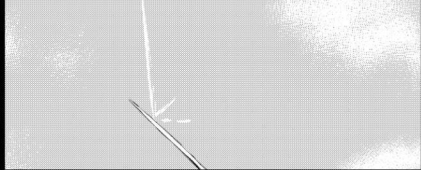




仕方ないだろう
こんなことは
初めてだ



その炎を
消したくはない





いえ…
よく覚えておいで



違ったか



あれに打ち込むのか



国章です

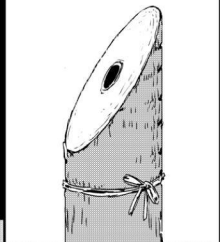
お花の名前



日本式訓練か？

そんなところです

修繕に出していたので
具合を見ようと



鉄も斬れるって
ほんとか？

達人ならあるいは

戦で百人斬ったって

シヨードンの話は

まじでか

ふふ

刃こぼれしますよ

それに

擲弾を受ければ
木端微塵です

お時間があれば
講釈を願えませんか
軍の医療部門の話
詳しく聞きたいのです

洋館に案内させます
着替えてきますから…

爺さんよ

俺様が素晴らしいのは
天地開闢からの事実だ

大きく出ますね

軍事、政治、医学、
好きなだけ持ってきやいい

しかしな
弱肉強食の世界で
抛って立つには
自分ってものが
必要だぜ

…国を開いてから
しばらく

貴兄らと
同じ土俵に上がるには
まず動物の皮を履くべしと
知りました

鬚も改めましょう
マントも羽織りましょう

丈を笑われようとも
今の私にはそれが必要です

この地に灯る炎を
絶やさぬために

ただ

この刀を仕舞おうとも
折るつもりはありません

今に
掲げる時が来る

磨きあげられ曇りない刀身
山の稜線のような鎧
慎ましく冴え冴えとしているが
幾夜錆鉄に焼かれ研磨にさらさねば
こうはならぬ

Do no sleep ~ 7/20/16
ma ~
手にすれば頼りないほど軽いが
寒気がするほど簡単に肉を断つもの也
Die Faust ~ 7/19/16
2w house ~
Aug 1.



…大きく出ました



はっ



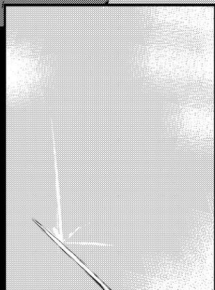
横顔が
剣みてえだな



それは私が
あなたに感じた
ことです









1400億マルク

1800億マルク

2000億マルク

おい
セリじゃあるまい

ノーノー
真面目な賠償要求
なんだぞ

とにかくライン川は
俺のものだからね

ヒゲは大人しくしてろ

現実的な要求にしてくれ



ふむ



くるっほー





よう



ひよろひよろ
じゃねえか

ひとつの戦に
全力投球しすぎだぜ

何してんだ
連合代表が



お久しぶりです



皆さん
闊達で！



なんというか



俺も今や
プロイセン州

お陰でうちは
てんでこ舞いで
上司も総入れ替えだぜ

怖気づいたか？
けちよんけちよんに
してくれやがって

カキ



情けねえ顔

弱肉強食の教えを
忘れたか

何だよっ

……

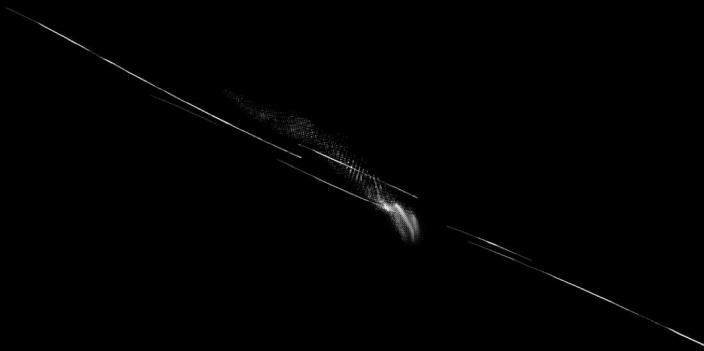


いえ

弟さんが大きく
なりましたね…











頼りになるけど…
張り合えないかな？



昔から努力家だもんね



たまには
声かけてくれて
いいんだよ
僕の友達なんだから
サービス有るかも



嘘



もう何も欲しいもんかよ



これいいね

世界時計

民主共和国
20周年記念だっけ？

みんなの時間が
すぐ分かる



ウイーン
ローマ

ウランバートル

ブダペスト

トーキョー…

ニューヨークは
要らないんじゃない



落ちちまった
んだな



渡り鳥か

うん

オジロワシかな…



Request in page.

ズッ



どうしてだろうな
渡り鳥ってのは



ここを終の宿に
してくれな

生まれたばかりの
奴でも

見たこともない
場所を目指して
何千キロもの危険を冒す

そこが
安息の地かも
わからないのに



あの雲のどこか先に
理想の国がある

俺の中で
生まれた炎は
そうやって
掲げられた



希望、狂気、情熱
燃え盛って
止むことはない



炎は継がれた





まあね

お兄さんは
寄り道しても
いいと思うけど…

幸福は路地裏に
潜んでいる



男前じゃねえか

こいつの中では
生まれた時から
そうと決まってるだろ



茨の道だろうと
ただ一つを選んで飛ぶ

これしかねえって



俺が鳥なら

巡り巡って
サンスーシ宮殿に落ちるぜ

愛すべき兄弟、
親父と共に！

はは

違うないね



そこから見えるか
親父

俺の軌跡だ

全部つながったぜ

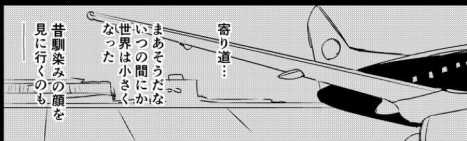


満足だ

勝手なことを
言う奴もいるが

父祖の地に
自慢の弟に
ひとつの家

これ以上
望むことがあるか



寄り道：

まあそうだな
いつの間にか
世界は小さく
なった

昔馴染みの顔を
見に行くのも



あなたも…

……



こちらの団子が
おいしいんですよ



統一したとはいえ
すぐに調子が
上がらないでしょう

少し
休みましょうか

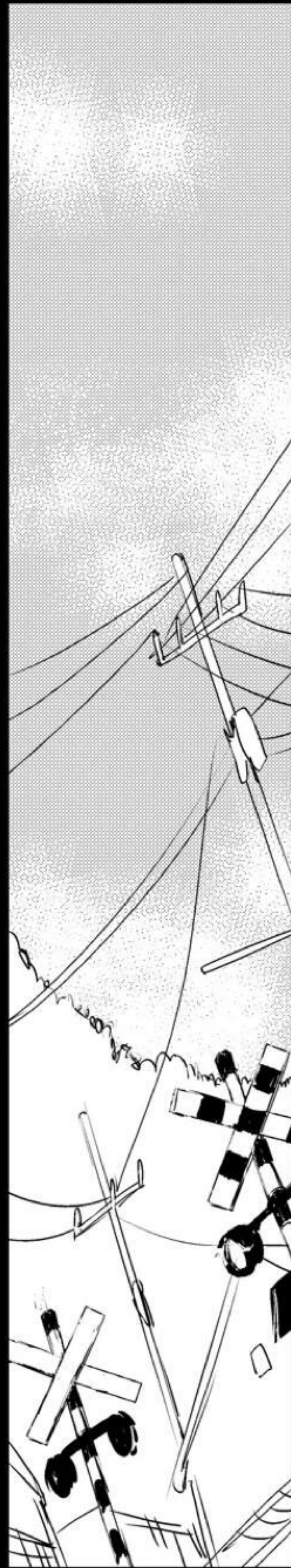


すっきり
隠居爺だな

キラキラしてたのが
嘘みてえ



ズッ
気が遣われたぜ





カミサマが
何でこんな所に
置かれてんだ？

おい

はて



お前の家
すっかり様変わり
しちゃったと思ったけど
それでもねえんだな

あー…
「ドウソジン」

よく御存じで



あそこの石階段の先には
神社があります

山道の入口に



失敬
無意味なものでは
ないですよ

ただ はっきりとした
意図があるわけでも…



深い緑に
朝日が差し込む姿は
祈りを誘う

時に脅威を
振るうことも
ありますが



山は恵みです
秋には実を落とし
春には色づき



社やしろも祠ほくらも
それに寄り添うために置く




私達はそこに
神を見ます



すべてそこに
あるだけです

あるだけでいい



こんなところには
来たことがない

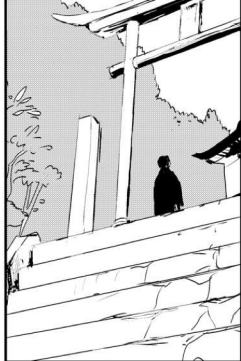
ああ
でも

知っている

ここはあたたかい

古い古い昔から
火がくべられている

ここで休みたい
少しだけ長く





私の誇りを
大事にしてくれるのは
嬉しいです

あなたは昔から
そうだった



気に障ったんなら
理由を言えよ

どうしたらいいか
分からねえ



...すみません



恥じていました
私はそんなに
頑なだったのかと...

情けない姿を
見せたくない
ばかりに



ただ
あなたを受け入れることが
それを折るわけではない

折れたとしても
ちっぽけなことです

俺のわがままに
なってるねえか

そんなこと
気にされるんですか

天下のプロイセンが

弟の地で

親父の眠る地で死ぬぜ

ええ

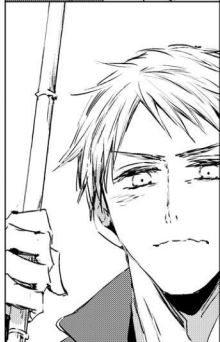
ええ

存じています

あなたの誇りを

俺は

俺はいつか





宙ぶらりんな奴を
何で受け入れた



私が
消えてなくなるかも
しれなかった時

かつて
あなたに炎を
移してもらいました



あなたの
作り上げたものが

理想に燃える情熱が
私の中で力に、
希望になりました

狂気となることさえ



燃える腫が

焼き付いて
離れない



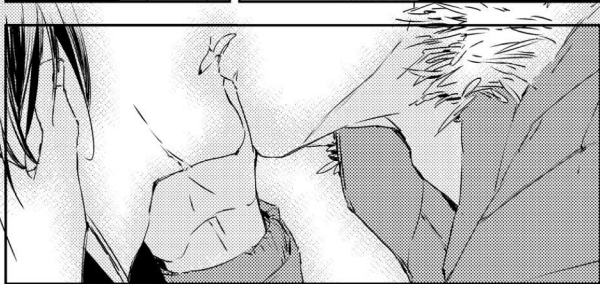
今度はこの身の
熱を分けることが
出来ればと



絶やしたくないと…



この炎を





老人なもんかよ

もうすぐ終わる体が

こんなに熱いわけがねえ



それは

私も



あなたに感じたことです

ギルベルト殿

こちらでは寒い日が続いています。お変わりないでしょうか。
こうして書簡をやり取りするのも両手では足りないほどになってきました。
たまには自分の事を書けとのことですが、難題です。これもご指導でしょうか。

先日、我が家では新年を迎えました。この時期はどの家も一家で炬燵を囲みます。私には家族はおりませんが、しきたりは大事です。とりわけお節料理は正月の醍醐味です。

最近気に入っているのはお屠蘇というものです。健康祈願の薬酒です。本来お若い方から順に回し飲みをするのですが、皆さん国人の長命を有難がるのか、一等先に飲まされます。こちらの方が生かされているようなものですが、この時ばかりは若者の気分で杯を戴いています。

ところで私は食い意地が張っているわけではありません。誤解の無いよう。

あなたの家では、降誕祭を家族と静かに過ごされると聞きました。クリスマスツリイは我が家でもなかなか評判です。弟君は天辺の星を飾れるようになったのでしょうか。あまりからかうと臍を曲げてしまうかと思いますが。こんなことを書くのは不躰かもしれませんが、家族とひとつの暖炉を囲む風景を想像すると、あなた方西洋の御人も我々と何ら変わらぬ人なのだと感じます。

未だあなたの立つ場所は遠い。

私は私の家の生活を愛しています。この地を愛しています。これまで自分の立っている場所を見つめるだけでよかった。

あなたにも愛する地があるでしょう。ただ、奪い奪われる中で、いつも空の先を見据えているようです。

私とあなたはあまりにも違う。

恐れや焦りもありますが、この頃そのことに安堵する気がします。

あなたから多くを学びました。空を切る鷲の目を借りて自身を見つめることが出来た。己を見失うなど言われたことを今でも覚えています。正しく出来ているか分かりません。しかしこの地を踏みしめ、この地に根差す事を忘れないようにと思っています。

夕陽を見えています。燃える山の稜線が美しい。

空も地も続いています。あなたの地でも同じ景色が見られるでしょう。

呑気だと笑われるかもしれませんが、私たちは皆同じ大地で眠る民です。同じ人ならば、いつか一つの景色を共に愛しむことが出来るのではないのでしょうか。

弱肉強食の世界で隙を見せるなどの教えでした。この事はどうかあなたの胸の内にしまっておいてください。

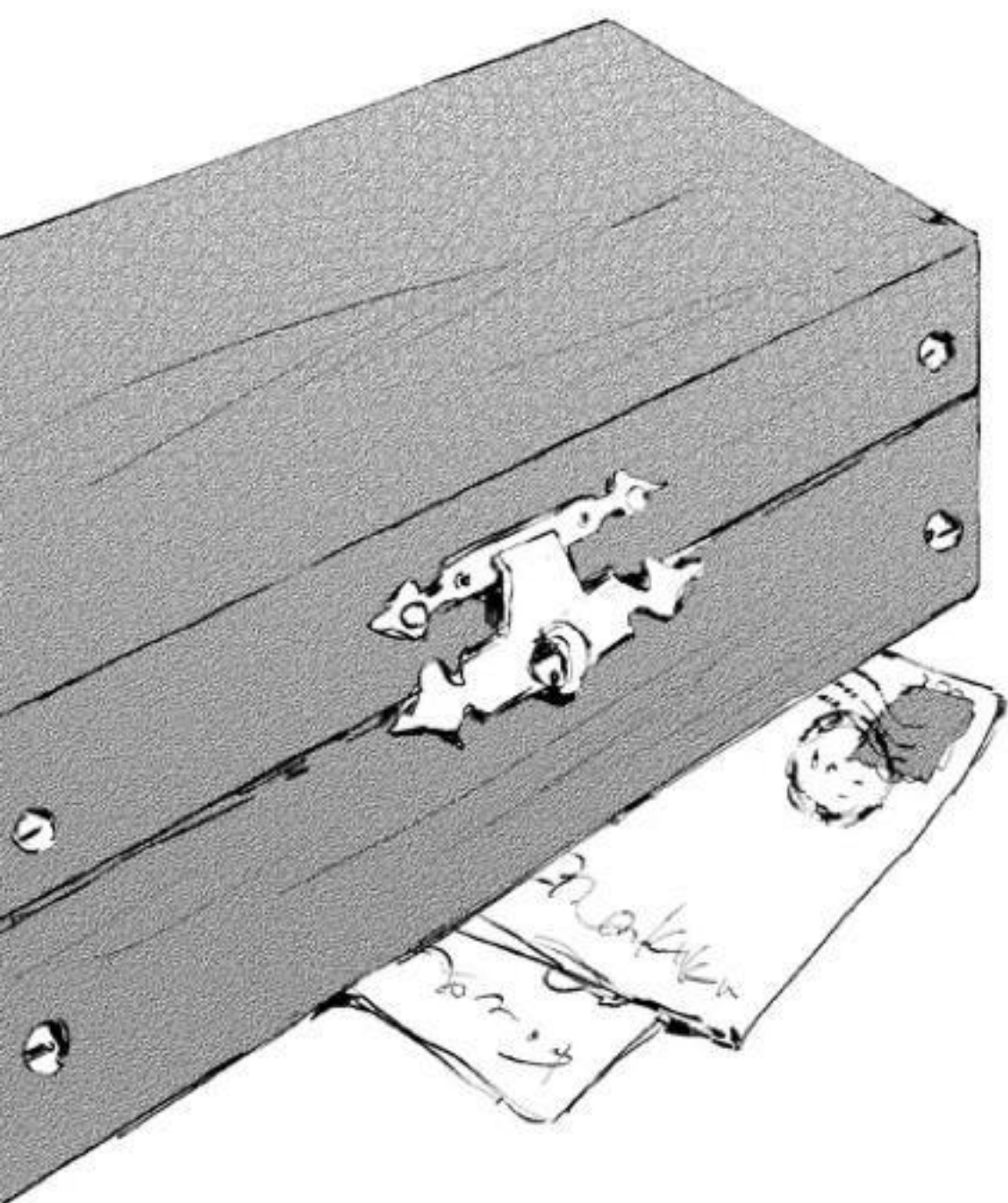
なんだか気恥ずかしくなってきました。

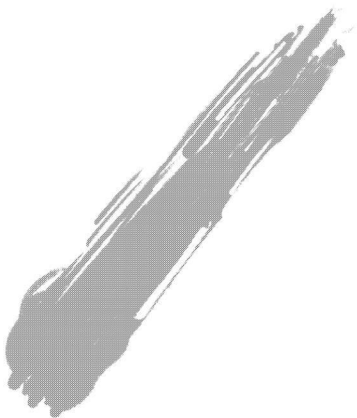
自分の話は今回限りでご勘弁いただけますよう。そろそろ筆を置きます。

拙いドイツ語をお許しください。

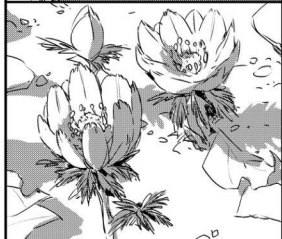
またお会いできる日まで息災で。

Dein Kiku





炎のように
発行：2015年1月11日
著者：kokon
発行者：yohitoi allnight





あなたのものです

ええ

普日 夜一夜

二〇一五〇一一

